

【科目名】	実用科学英語基礎編		Basic English Usage in Natural Sciences		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	火曜1限	
【科目責任者】	太田敏郎				
【担当教員】	太田敏郎				
【授業目標】	理系・文系の区別なく科学的・専門的な内容の英文を正確に読解する力を養成するため、その基礎となる英文法の理解を深めることが主要な目標。それが結果として実践的なTOEIC対策にもつながるので、TOEICの効率的なスコアアップも副次的な目標(主にp5&6対策)。				
【授業概要】	中高で習った英文法を真に受けている人も多いと思いますが、それが実は簡略版でしかなく、実用レベルでは通用しなかったり正確な理解の妨げになったりすることは意外と知られていません。そうした点を多くの具体例を挙げて解説し、大学受験の先にある研究・仕事や留学に活かせる実用版英文法への橋渡しをします。一方、共通テストで英文法問題が廃止された影響で文法理解を深めないまま入学してくる学生が増えているようなので、従来の学校英語の復習も強化しています。細部で辻褄が合わない学校英語の単なる学び直しではなく、改めてその問題点を認識し、さらには感覚ではなく自分の頭で考えて論理的に英文法を理解できるように解説します。英語と日本語を適切に比較することで難解な専門用語やネイティブ感覚に頼らずに英文法の要点を整理し、さらには日本語の理解も深められるような講義を目指しています。				
【授業方法】	対面授業が原則。授業時数の半数を超えない範囲で学生自ら調べ考える遠隔演習を実施(積極的に取り組む姿勢が重要)。※詳しいことはUNIPA授業資料でご説明しますので、履修登録期間中にご確認ください。				
【授業展開】	1. ガイダンス：講義予定、効率的なTOEIC対策と推薦図書について 2. 桁が大きな数字の聞き取り：簡単な秘訣を知るだけで大きく改善(軽くウォームアップ) 3-6. 学校英語の復習：TOEICパート5&6対策も兼ねた文法解説 7-8. 前置詞・副詞：at, in, onの比較(使い分けの基準、特に日本人が間違いやすいonの深掘り) 9. 現在時制と現在進行：「do=する、be doing=している」の問題点(日本語とのズレ) 10. 過去時制：現在時制との共通点と相違点、仮定とは違う仮定法の本質 11. 現在完了：現在・過去との対比でしか見えない本質、日本語に基づく整理法 12. 未来時制：「will=つもり・だろう」説明の問題点、be going toの本質(willとの役割分担) 13-14. 可算不可算：「数えられるか否か」説明の問題点、数え方の和英比較、主語・動詞の単複一致を深掘り 15. まとめ ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細はUNIPA授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	中高とは視点が異なる論理的な文法解説に興味がある人、英文法が好きな人や好きになりたい人を歓迎。理解度には個人差がつきものですが、個々のレベルに合わせて得られるものがあるはず。過去3年間の平均では受講者が約90名、うち文系が約6割で理系が約4割、1年生が約2/3で2~4年生が約1/3。参考までに、受講生からは「中高と違う説明で疑問解決/面白い/新鮮/迷ったが受講して良かった/英語の深いところまで学べた/英語の見方が変わった/留学にも実用的/英文法に悩んでいる人にオススメ/TOEIC対策にもオススメ/塾講師として指導に活かせる/非常に学びが多い/毎回充実/ネイティブ 感覚の言語化」などの感想を多くいただいた一方で、少数ながら「学校英語と違って難しい/時間がかかって大変」というご意見も(感想には個人差あり)。				
【評価方法】	成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には3分の2以上の出席が必要。				
【テキスト】	「TOEIC L&Rテスト 英文法 出るとこだけ！」小石裕子 著 [アルク] (他に、必要に応じてプリント等を適宜配布)				
【参考書】	UNIPA授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC対策:p5&6コツ解説&演習と簡便なp2演習 2. 基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎を学び直したい上級生も歓迎(大学初~中級、TOEIC初~中級) DUO語彙演習:汎用性が高いテキストを使って英単語力を維持強化(単語力が低下した上級生も対象、TOEICにも有効) VOA英文和訳&英作文演習と個別的文法解説:3~4年次でも丁寧な和訳演習に取り組みたい人には受講を推奨 TOEICp2,p3&4対策は任意受講の予定 (どの演習も基本的に前期の基礎生命科学Iの継続) ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的な文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1~4即効テク解説、p2~4熟練スキル演習&解説 4. 基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当				
【社会人聴講生】	可 (要相談)	【科目等履修生】	可 (要相談)	【交換留学生】	Possible (可)

【科目名】	茶学入門		Introduction to Tea Science		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	*中村 順行				
【担当教員】	*中村 順行 他				
【授業目標】	静岡に立地する本学学生の教養として、茶に関する広範な知識を学ぶ				
【授業概要】	静岡県は全国有数の茶葉、飲料、加工食品の生産県であり、本学を含めた複数の大学や国公立の試験研究機関、民間企業において茶関連の食品、医薬品、化成品の研究が活発に行われている。したがって本学の学部生や大学院生はそれらを就職先として考えることも多い。また、静岡県においても「茶の都」づくりの推進や本学内にも茶学総合研究センターの設置など、茶をKeywordとした取組も多い。このような背景のもと、学生には、学部を問わず茶に関する広範な知識と教養を身につけることが望ましい。そこで、当科目は茶についての歴史、文化、経済、生産、加工、味、香り、生理機能、茶の多用途利用・商品化など広範な項目をそれぞれの専門家に解説して頂き、知識を深める				
【授業方法】	プリントやプロジェクターを使った対面式講義				
【授業展開】	1. ガイダンス：講義の進め方、成績評価方法、茶学に関する概説等 2.3. 茶の歴史、文化：茶の起源、飲用方法、茶にまつわる因習等の文化的、歴史的な面についての概説 4.5. 茶の種類、生産、加工、飲用方法：多種多様な茶種が栽培、加工されており、それに関する最先端技術の紹介、各茶種の特性を活かした、茶の淹れ方、飲用方法について科学的な概説 6.7.8.9. 茶の機能：茶を特徴づける成分について、その特徴、機能、効能等を化学的、生理的に概説 10.11.12. 茶に関わる商品開発、マーケティング：茶の多彩な商品開発への展開、消費者へ届くマーケティング戦略、茶畑の景観を生かしたグリーンティーズム等 13.14.15. 茶の静岡県、日本、世界へ向けた施策及び、次世代への展望： 静岡県の茶の都づくり、世界へ向けた日本茶の輸出についての取り組み、茶の特性を活かした、次世代への展開について概説、総括				
【履修条件】					
【評価方法】	原則的に、授業への取り組み姿勢及びレポート・小テストなどにより評価する				
【テキスト】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【参考書】	必要に応じて担当教員が紹介する				
【備考】	講師陣として、茶関連研究の第一人者をゲストスピーカーとして招きつつ、幅広く茶学の初歩部分全般を講義する				
【社会人聴講生】	社会人聴講生は30名まで	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	静岡地域食材学B		Local Food Materials B		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	木曜1限	
【科目責任者】	江口智美				
【担当教員】	市川陽子、江口智美、下山田真、増田修一、*静岡県工業技術研究所の研究員（特別講師）ほか				
【授業目標】	静岡県内で生産されている特徴ある食材に関して広範に学ぶ。				
【授業概要】	静岡県は茶のみならず柑橘類、わさび、日本酒、畜産物、水産物においても高い生産額や品質を誇る。さらに、学部生や大学院生が地元の食品産業に就職する可能性も高い。このような背景のもと、静岡県立大学の学生には学部を問わず、地域の食材に関する広範な知識を教養として身に付けて欲しい。そこで、本科目では、静岡県内で生産される複数の食材について、歴史、生産、加工、成分の化学、生理機能などに亘る広範な項目をそれぞれの専門家が解説する。Bでは、おもに静岡県の優れた食品加工技術や機能性食品、未利用資源の活用などについて取り上げる。				
【授業方法】	対面授業。 本学教員と県内の研究所・企業・大学の講師によるオムニバス形式で、配付資料やスライドを使ってレクチャー形式の講義を行う。				
【授業展開】	1．オリエンテーション、静岡県の米料理・加工品 2．静岡県の発酵食品（大豆を中心に） 3．静岡県の缶詰産業（歴史で振り返る地域の活性化） 4．静岡県の未利用資源①（鹿肉） 5．静岡県の機能性食品（わさびほか） 6．静岡県の水産加工品（かつお節、はんぺん） 7．静岡県の未利用資源②（魚類） ※一部の講義を外部講師に依頼するため、講義の順番が変わる場合がある。				
【履修条件】	なし				
【評価方法】	出席状況とレポートを総合して評価する。 出席は、原則として、授業回数の3分の2以上（5回以上）を必要とする。 レポートは、講義内容に関する200～300字程度のミニレポートを毎回課す。				
【テキスト】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【参考書】	必要に応じて講義担当者が紹介する。				
【備考】	*特別講師の静岡県工業技術研究所の研究員、県内食品製造業の開発担当経験者、県内大学教員が、静岡県の特色ある加工食品の特徴や製造技術、流通や販売等について解説する。 初回授業日は、後期の8回目（2025年11月20日）。				
【社会人聴講生】	受入可	【科目等履修生】	受入可	【交換留学生】	受入不可

【科目名】	基礎生命科学Ⅱ		Introduction to Life SciencesⅡ		
【開講時期】	2025年度後期		【開講時限】	金曜1限	
【科目責任者】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【担当教員】	Toshiro Ohta（太田敏郎）				
【授業目標】	The main purpose of this course is to help beginners in English develop their English reading, listening, and some writing skills. Also, students will be introduced to some interesting topics in the field of Life Sciences. 網羅的な生命科学概論ではなく、生命科学(医学・食品栄養科学)分野の基本的な英語表現に慣れ親しみ、英文を読解・作文・聞き取り・発声する能力を高めることが主な目標。入試後に衰えがちな語彙力も強化。主に1~2年生(大学初~中級レベル)の総合的な英語力向上(留学生なら日本語力向上)のための授業ですが、インプット不足で英単語力や長文読解力・文法力が低下している3~4年生への対応も目的の一つ(意味を正確に理解した英文と単語・フレーズの大量インプット&忠実アウトプット演習)。				
【授業概要】	Students will translate news articles from the Voice of America Learning English program that cover interesting topics in Life Sciences into Japanese and back into English. In addition, important grammatical topics will be covered in detail. DUO, a general-purpose wordbook, will be used for vocabulary building. 1. 世界的な英語教材Voice of America(略してVOA)生命科学記事の和訳演習:視覚的な構文解析と実用的な文法解説 2. VOA英文を再現する英作文演習(VOA聞き取り演習は各自で) 3. 汎用英語例文集DUOを用いた語彙演習(和訳、英訳、聞き取り、発声の4技能をペアワーク):基礎生命科学Iの後半部分 4. 大学入学後に学ぶべき実用英語への導入として、冠詞(定冠詞・不定冠詞・無冠詞)・限定詞と句動詞について文法解説 5. 学生からの要望が多いTOEIC対策(任意受講の予定):後期はp2,p3&4(前期にp2)				
【授業方法】	対面授業が原則、授業時数の半数を超えない範囲で遠隔授業を実施(詳細はUNIPA授業資料でご確認ください) ※DUO演習は友人とペアワークすることで効果やモチベーションが向上(1人で受講の場合は教員が相手を指定)				
【授業展開】	1. Course Introduction: Voice of America Learning English program 2-5. Fat Cell Gene Linked to Colon Cancer 6-8. Long History, Unclear Future for 'Golden Rice' 9-11. Gut Bacteria: We Are What We Eat 12-14. Progress Made in Fight Against Ebola 15. Course Summary DUO vocabulary exercises and TOEIC exercises will be conducted on a near-weekly basis. ※講義内容や順番は変更になる可能性があり、詳細はUNIPA授業資料で公開(履修期間中に仮登録すれば閲覧可能)				
【履修条件】	Both natural science students and social science students can participate. 学部・学年を問わず英単語力・長文読解力の強化に興味がある学生を歓迎。国際関係学部と経営情報学部の学生も数多く受講(多い年で約5割、平均で約2割)。食品栄養科学部の食品生命科学科と栄養生命科学科の1&2年生で英語力不足を補いたい学生には受講を推奨。環境生命科学科の学生はDUOなど一部の演習が環境科学英語Iと重複しますが、その点を理解した上で受講可能。文法に自信がない学生は、英文法を包括的に学ぶ実用科学英語基礎編と並行してこの基礎生命科学IIで個別的文法事項について学ぶことを強くお勧めします。参考までに、過去のアンケートでは後輩に薦めたい点としてDUOペアワーク演習が圧倒的に多く挙げられていました(この演習が気に入って前期の基礎生命科学Iから継続して受講する学生も多く、TOEIC高得点の学生にも好評)。				
【評価方法】	Evaluation will be based on assignments. Must not miss more than 1/3 of the weekly classes. 成績は全て課題で評価(提出状況と内容:欠席の場合も提出すれば評価対象)。単位認定には3分の2以上の出席が必要。				
【テキスト】	「DUO 3.0」 鈴木陽一 著 [アイシーピー](全員購入必要)、VOA episodes and other materials will be handed out.				
【参考書】	UNIPA授業資料で紹介予定				
【備考】	※後期に全学共通科目として以下の講義を担当しますので、科目を選ぶ際の参考にして下さい。 1. この基礎生命科学II:主に1~2年次対象、大学英語の基礎、上級生も可(大学初~中級、TOEIC初~中級、前期基生科Iの継続) DUO語彙演習(TOEIC対策にも有効)、VOA和訳&英訳演習と個別的文法解説、TOEICp2,p3&4演習(任意受講の予定) 2. 実用科学英語基礎編:全年次対象(大学初~上級、TOEIC初~中級) 学校英文法の復習&実用的英文法の包括的解説、TOEIC対策:p5&6コツ解説&演習と簡便なp2演習 ※前期に担当する全学共通科目も参考までにご紹介しておきます。 3. 基礎生命科学I:後期の基礎生命科学IIの前半に相当 4. 実用科学英語応用編:主に2~4年次対象(大学中級、TOEIC中~上級) 和訳演習(多読速読)&個別的文法解説、英文法深掘り解説、TOEICp1-4即効テク解説、p2~4熟練スキル演習&解説				
【社会人聴講生】	可(要相談)	【科目等履修生】	可(要相談)	【交換留学生】	Possible(可)

【科目名】	国際法Ⅰ		International LawⅠ		
【科目種別】	ブリッジ科目（国際関係学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2025年度後期	【開講時限】	水曜3限	【オフィス・アワー】	水4 メールでご連絡ください。Zoom、電話又は対面で実施します。
【科目責任者】	坂巻 静佳				
【担当教員】	坂巻 静佳				
【授業目標】					
●授業目的	・国際社会を法的な観点から評価できるようになること。 ・国際社会と国際法の変容、国際法が国際社会に果たしている役割とその限界を理解すること。				
●到達目標	・国際法の総論に区分される国際法の歴史、法源、条約法、国際法と国内法の関係の各分野に関する基本的な法規則・理論の内容、機能・役割、及び、法的論点を理解している。 ・これらの分野に関わる法規則の成り立ち、展開、その限界を理解している。 ・これらの分野に関わる国際社会の諸問題を、法規則を適用して法的な観点から評価できるようになる。				
【授業概要】	外国に旅行できるのはなぜでしょうか？外国から郵便が届くのはなぜでしょうか？海で魚をとることができるのはなぜでしょうか？その背後には、国際社会の基本的かつ共通のルールである国際法がかかわっています。 国際法は、国家その他の一定の行為を規制し、一定の行為を認めることによって、国際社会の安定や平和に大きな役割を果たしてきました。今日、国際社会を理解するには、国際法を学ぶことが不可欠であるといえましょう。 国際法の入門科目であるこの授業では、国際法の成り立ちを概説することを通じて、国際法の発展と現代国際法におけるきわめて重要な原則を学びます。また、国際関係を規律する国際法の基本的な枠組みを学び、国際法が国際社会においてどのように機能しているのかを把握します。 国際法Ⅰは、これを受講すれば国際法の基礎的な部分はある程度押さえられるよう授業を構成していますので、国際法に興味のある方は手始めに受講してみただければ幸いです。 この授業を通じて、国際法についての理解を深め、国際社会を捉えるひとつの視点を手に入れてもらえればと思っています。				
【授業方法】	・本授業は講義形式で実施します。 ・授業の連絡・授業資料の配布等は、Google Classroomを利用します。Universal Passportでは実施しないので御注意ください。 ・Universal Passportでの履修登録は当然に必要です。Google Classroomの本人確認のために使用するので、初回授業2日前までに、Universal Passportに履修登録しておいてください。 ・履修希望者は、初回授業までに、Google Classroomの国際法Ⅰクラスに参加しておいてください。 ・Google Classroomへの参加には、おそらくGmailアカウントの設定が必要です。 ・Google Classroomの登録名は、学籍登録してある氏名にしてください。Universal Passportで履修登録済みの氏名と合致しない場合は削除します。事情により困難な場合はメールで事前に御連絡ください。 ・Google Classroomへの参加方法は以下のURLを御参照ください。 https://onl.la/MyCBVku ・この授業のGoogle Classroomのクラスコードは2025年9月27日以降にWeb上のシラバスに掲示します。 ・状況等によりZoom（同時双方向）による授業になる場合があります。				
【授業展開】	＊進行状況その他により回が前後したり、内容が変更となる可能性があります。御了承ください。 第1回 イントロダクション・法的評価の方法 第2回 国際法の特徴 第3回 国際法の歴史① 第4回 国際法の歴史② 第5回 国際法の歴史③ 第6回 国際法の法源① 第7回 国際法の法源② 第8回 条約法① 第9回 条約法② 第10回 条約法③ 第11回 条約法④ 第12回 条約法⑤ 第13回 国際法と国内法① 第14回 国際法と国内法② 第15回 まとめ				
【履修条件】	・授業の初回に進め方等について説明するので、本授業の受講を希望する者は可能な限り初回の授業に出席すること。 ・1年生での履修を推奨する。（その理由等については備考欄を参照のこと。）				
【評価方法】	・単位を取得するためには期末試験を受験しなければならない。 ・成績は期末試験により評価する予定である。授業への参加および出席を考慮する場合もある。 ・変更のある場合は及び詳細は随時で説明する。				
【テキスト】	『国際条約集』（有斐閣、2025年）。 前年度までのものでもかまいませんが、毎年収録文書に変更があるので御注意ください。 前年度版までを使用することによる不利益については、すべて自己責任となりますのでご承知おきください。 また、試験での使用認めているのは、傍線を含め書き込みの一切ない条約集のみです。1つでも書き込みがあると使用できなくなり				

	ますので、使用の際は御注意ください。 教科書については初回の授業で説明します。				
【参考書】	初回授業時に説明する。				
【備考】	・本授業（国際法I）で扱う内容は、国際法II、国際法III及び国際法IVを受講する前提となります。また、国際法Iで扱う内容は、国際経済法、国際組織法を学ぶ上での前提ともなります。国際法I、国際法II、国際法III及び国際法IVはそれぞれ独立した科目で、単体でも受講可能ですが、内容的に一続きとなっており、国際法I、国際法II、国際法III、国際法IVの順序で履修されていくことを予定しています。国際法Iで扱った内容は理解していることを前提に、国際法IIの授業は実施されます。国際法IIIの授業は、国際法Iと国際法IIの知識を備えていることを前提に、国際法IVの授業は、国際法I、国際法II及び国際法IIIは履修済みであることを前提に、進められます。したがって、国際法II、国際法III及び国際法IVを履修する可能性のある学生は、1年生の段階で国際法Iを履修しておくことを強く推奨します。 ・国際法I、国際法II及び国際法IIIの単位取得は、坂巻担当の演習IAを履修する必要条件となっています。坂巻担当の演習を希望する可能性のある学生は、1年生の後期に本授業を履修するようお願いします。（2年生の後期水曜3時間目は第二外国語の授業が開講されるので、2年生後期に国際法Iを履修することは実際上難しい状況です。）				
【社会人聴講生】	履修可。ただし以下の要件をみたすこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合があるので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。	【科目等履修生】	履修可。ただし以下の要件をみたすこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合があるので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。	【交換留学生】	履修可。ただし以下の要件をみたすこと。 ・Googleアカウントを取得すること。（授業に関する連絡及びレジュメ等の配布は、Google Classroomを通じて実施する。授業では配布しないので注意すること。） ・状況等によりZoomで実施する場合があるので、Zoomでの授業を受講の可能な通信とデバイスを利用できること。

【科目名】	中国現代史B		Modern History of China B		
【科目種別】	ブリッジ科目（国際言語文化学科）		【配当年次】	1・2	
【開講時期】	2025年度後期	【開講時限】	木曜3限	【オフィス・アワー】	木曜4限
【科目責任者】	大野絢也				
【担当教員】	大野絢也				
【授業目標】					
●授業目的	20世紀中葉以降の東アジアと中国の歴史について多角的な視点から学ぶ。				
●到達目標	①中国現代史について理解するための基礎的な知識を習得すること。 ②現代中国の成立と展開過程を理解した上で、いかなる構造的な特質を持っているのか、理解すること。 ③中国を中心とした東アジアにおける諸問題の背景や歴史認識の差異について、理解すること。				
【授業概要】	20世紀の世界は、2つの世界大戦や冷戦に代表されるように激動の時代であった。第二次世界大戦後の中国は、そのような国際情勢や国内の政治局面の変化とともに、常に大きく揺れ動いてきたと言える。そのことを踏まえ本授業では、世界全体に大きな影響力を持つ「グローバル大国」となった現代中国が、どのような歴史的系譜の下で成立し現在に至っているのか、多角的な視点から見ていく。特に「中国現代史B」では、国際情勢や戦争が中国に与えた影響（外交・軍事史）や国家建設のための経済政策の過程（経済史）に着目する。「現代中国論A」の導入という位置付けでもあるため、続けての受講を勧める。				
【授業方法】	基本的に対面形式で講義を進める。その他、各学期の導入（初回）と総括（最終回）において、グループワークを実施する。グループワークでは、導入において中国現代史に関するキーワードを抽出し、総括では自らの考えについて意見を表明し、グループ毎で討論を行う。				
【授業展開】	第1回 初回ガイダンス・導入（グループワーク：キーワードの抽出） 第2回 近現代中国の政治・外交・経済・社会史 第3回 2つの世界大戦と中国（1）：第一次世界大戦と五四運動 第4回 2つの世界大戦と中国（2）：軍閥割拠・第一次国共合作 第5回 2つの世界大戦と中国（3）：北伐・第一次国共内戦 第6回 2つの世界大戦と中国（4）：満洲事変から西安事件まで 第7回 2つの世界大戦と中国（5）：日中戦争から第二次世界大戦へ 第8回 人民共和国の成立（1）：東アジアの戦後構想における中国 第9回 人民共和国の成立（2）：日本敗戦と第二次国共内戦 第10回 人民共和国の成立（3）：新民主主義論と土地改革 第11回 人民共和国の成立（4）：社会主義計画経済 第12回 中国の経済建設（1）：内陸開発論の系譜 第13回 中国の経済建設（2）：改革開放と経済成長 第14回 中国の経済建設（3）：大規模インフラ整備の展開 第15回 総括（グループワーク：討論）				
【履修条件】	東アジアや中国の現代史に関心があり、積極的に授業に参加する意欲があること。				
【評価方法】	期末試験（40%）、グループワーク（40%）、出席状況（20%。欠席3回で原則不可）、などに基づき、総合的に評価する。詳細な説明は初回ガイダンスで行う。				
【テキスト】	特に指定しない。資料を随時配布する予定。				
【参考書】	次の参考文献は、授業内容に関連する主要なものとして刊行年順に挙げる。1.小島朋之『中国現代史：建国50年、検証と展望（中公新書）』中央公論新社、1999年。2.菊池一隆『中国抗日軍事史：1937-1945』有志舎、2009年。3.吉澤誠一郎ほか『シリーズ中国近現代史①～⑥（岩波新書）』岩波書店、2010～17年。4.田中仁ほか編『新図説中国近現代史：日中新時代の見取図』法律文化社、2020年。5.久保亨『20世紀中国経済史論』汲古書院、2020年。その他、初回ガイダンス時に参考文献リストを配布する。				
【備考】					
【社会人聴講生】	可	【科目等履修生】	可	【交換留学生】	可

【科目名】	情報科学概論		Computer Science		
【配当年次】	1年		【開講時期】	2025年度後期	
【科目責任者】	小田紘久				
【担当教員】	*小田紘久				
【授業目標】					
●授業目的	「情報科学」に関する基礎的な事柄の概要の習得				
●到達目標	・ コンピュータの基本機能と計算する機会から知識増幅を支援する機械への発展について理解する。 ・ コンピュータハードウェアを実現するための2進数、ブール代数、トランジスタ、メモリのしくみについて理解する。 ・ 簡単なデジタル回路の設計やマイコンと電子回路について理解する。 ・ 基本ソフトウェアと表計算ソフト、文字入力ソフトなどの応用ソフトウェアの誕生について理解する。 ・ プログラミングの基礎についてアセンブラや順次・選択・繰り返し構造などについて理解する。 ・ デジタル化のためのサンプリング定理・量子化や色空間、階調表現などについての概要を理解する。 ・ 音声処理、音声認識、音声生成の概要を理解する。 ・ ニューラルネットワーク、ディープラーニング、機械学習、パターン認識の概要を理解する。				
【授業概要】	コンピュータの仕組み、情報数学（ブール代数・論理演算・論理回路）、ハードウェア、ソフトウェア、アルゴリズムとプログラミング、情報理論（シャノンのエントロピー定理、情報圧縮の理論、誤り訂正符号の理論）、視覚・聴覚による情報、ニューラルネットワーク等、情報科学の基礎的な事柄の概要を原理に立ち返って解説する。				
【授業方法】	原則として配布する講義録にしたがって進める。技術の背景や本質的な意味について理解できるようにする。 対面での実施を原則とする。				
【準備学習】	授業前に、アップロード済みの講義資料に目を通して理解に努めること。授業後に、演習課題の再実施をはじめとした復習を行うとともに、関連する情報を収集すること。				
【授業展開】	1．はじめに 2．コンピュータの仕組み①（プログラマブル、電子デジタル化、ノイマン型など） 3．コンピュータの仕組み②（マイコンと周辺回路、計算処理から知的能力の増幅支援へ） 4．情報数学の基礎(ブール代数、真理値表、ベン図、双対の原理など) 5．論理演算と論理回路（ド・モルガンの定理、正論理と負論理、最小万能演算系など） 6．ハードウェア基礎（トランジスタの原理、記憶素子（メモリ）のしくみと用途など） 7．ハードウェア応用（デジタル回路の設計、カルノー図、加算回路など） 8．ソフトウェア基礎（オペレーティングシステム、表計算ソフト、文字入力ソフトなど） 9．アルゴリズムとプログラミング(アセンブラ、順次・選択・繰り返し構造など) 10．シャノンの情報量と平均情報量（エントロピー）に関する定理 11．符号圧縮理論と誤り訂正符号理論 12．視覚・聴覚による情報（サンプリング定理、エイリアシング、色空間、階調表現など） 13．画像処理、画像認識、画像生成 14．ニューラルネットワーク、ディープラーニング、パターン認識概説 15．総括				
【履修条件】	（既習指定科目など）				
【評価方法】	講義中の課題 50%、レポート 50% で評価する。				
【テキスト】	講義録は講義時に配布する。				
【参考書】	授業の際に紹介する。				
【備考】	担当教員は機械メーカーにおけるシステム管理経験を有しており、コンピュータや情報技術に関する幅広い知識に基づいて講義を進める。				
【旧カリキュラム読み替え科目】	情報科学概論				
【社会人聴講生】	聴講可（事前確認要）	【科目等履修生】	聴講可（事前確認要）	【交換留学生】	聴講可（事前確認要）